

横芝の碑

(その九十六・下)

坂田城下に点在する

横向の三猿と昔の道筋

(曾根合の庚申様と昔の道標)

曾根合の庚申様は、上総と下総の間を流れている栗山川にかかっている栗島橋を渡って来る、いわゆる金刀比羅道が於幾に入ると二本に分れます。一本は、坂田方面に、いま一本は曾根合から寺方に通じていますが、その道路沿の曾根合地域に建っています。場所は、何となく村外れと言った感じのする三つ角になった所です。

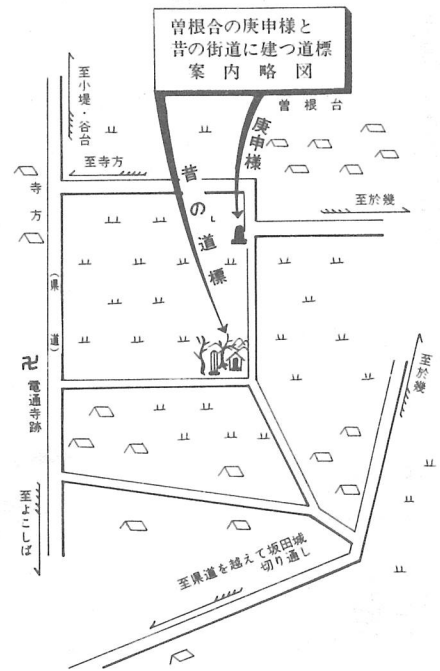
庚申様は、一つの石に青面金剛から三猿までの図柄が刻まれています。天邪鬼が刻まれている。それから、三猿の両側の二匹が坂田や栗島神社境内の庚申様の三猿と同じように、横を向いています。また、大いの庚申様は、本体の何処かに建立年月や施主名等が刻まれているのですが、この庚申様は、本体とは別の台座に刻まれています。石の材質の關係でしょうか、大分破損と磨滅が目立ちますが、それでも、地元の方々の心づかいで、セメントで補強す

る等の修理が施されており、延享二乙丑年(一七四五)正月廿二日、曾根合村、と刻まれているのがよく読みとれます。曾根合の人々に「ご利益は?」と聞いて見ますと、「無病息災、家内安全」と大総地域の殆どで聞く答えが返って来ました。その中に「この庚申様の前から田圃の中を通り坂田に抜ける道があるが、これが昔の本街道で、途中坂田の入口にお地藏様が建っている。このお地藏様が、子育ての地藏と言われている」と教えてくれた方がありました。そう言われて、改めて見なおした庚申様の玉垣に使用されている石には、道標らしい文字が刻まれています。きつと、昔は道標が必要なの三つ角だったので、

そして、教えられた田圃道に入っ

て見ました。道は案外に広く、又まっすぐでした。お地藏様は、榎らしい老木と篠竹の森に囲まれて建っていました

が、その前に、明治三十二年に建てられた、一米五十程の立派な石の道標が建っているのに気がつきました。やはり、この田圃道は昔の本街道だったのです。道標には、奉拝礼伊勢御鎮座千九百年祭記念、明治三十二年三月十五日建と刻まれ、正面には、よこしば停車場道、東くりふね道、西芝山、成田道、と刻まれています。これも三つ角になっていて、曾根合、坂田、それから寺方の霊通寺跡に、それぞれまっすぐに通じているのです。どうも、栗島橋から入って来る金刀比羅道は、於幾から坂田に入るのが本通りで、それも今の表通りとは異った道筋があつて、この辺りの何処かで横芝駅から来た道と一緒に、一本は、坂田の切り通しを通過して振子坂の中腹に抜け、町原、中台を経て芝山、成田方面に、そして、今一本は、霊通



寺の前か、或いは曾根合の庚申様の前を通って、寺方、谷台等を経て、多古の船越から栗本方面に通じていたのではないかと、これが、くりふね道であろうと考えるのは冒険でしょうか。それ以外、くりふね道の方向が分らないのです。地蔵様と三つ角について坂田周辺の人は、こんな風に話しています。「地蔵様の前の道は、大正の始めまでは本通りであった。霊通寺が栄えていた頃は、門前参道でお盆等には市が立ち、地蔵様の傍には茶店が建つ程賑わったものである。地蔵様は六道の辻の地蔵様

でもあったようだが、乳の出る願にご利益があるというので、昔は随分遠くからお詣りに出た」概要そんな話でした。

坂田城山周辺に点在する庚申様から道標まで存在する。昔の道。を教えられました。この道標による道筋については、改めて取材して見たいと考えています。

◎ 写真は、曾根合の庚申様と地蔵様の前に立つ道標(向って左の角柱)と地蔵様(祠の中)

横芝町文化財審議会委員
小沢春光氏寄稿